

トキとの共生を目指す里地（B地域）

登米市

1 地域の概要

宮城県の北東部に位置し、西部が丘陵地帯、東北部が山間地帯、その間を北上川等が貫流し、豊かな水環境から肥沃な「登米耕土」を形成しています。伊豆沼・内沼はラムサール条約登録湿地となっており、「水の里」とも呼ばれています。

日本に飛来するガン類、白鳥などの渡り鳥の約8割が伊豆沼周辺で越冬し、鳥類の生息環境として良好な環境であると考えられる。

面積：53,612ha（田：15,700ha、畑：1,920ha、林野：22,163ha）

人口：76,912人（R3.3月末）

気候：内陸性気候、平均気温 12.3℃

年間降水量1,027mm

年間日照時間1,950.1h

地名のとおり米どころ！

朝ドラの舞台の一つになるくらい、豊かで美しいまち！

登米市は東北の市町村として初の「生物多様性地域戦略」を策定したまち



とめ生きもの多様性プラン

～イヌワシやマガン、アカトンボが舞うふるさとをめざして～を基本理念とし、本市では、自然と共生したまちづくりの実現を目指し、将来にわたって自然の恵みを持続的に利用できるように、適切な形で自然を保全・再生していくことや、豊かな自然と共生する生活の知恵や文化を引き継いでいくために「とめ生きもの多様性プラン」を策定しています。(平成27年3月)

環境保全米発祥の地



「赤とんぼが乱舞する産地を目指そう」を合言葉にスタートした「環境保全米」の栽培は**登米市**が発祥の地。

水稻作付面積	10,070ha	100%
3割減減	-	-
5割減減	7,660ha	76%
10割減減	134ha	1%

資源循環型農業



登米市の和牛は、環境保全米を生産する水田から生まれた稲わらを食べて育ちます。そして、市内7か所にある有機センターにおいて、有機堆肥を生産し、水田に還元しています。

こうした環境にやさしい資源循環型農業が登米市全域で行われています。

登米市の将来に向けた持続可能な林業



市内の森林の半分以上がFSC森林認証を取得し、将来に向けた持続可能な林業に取り組んでいる。

2 取組方針

トキに飛来してほしいけれど、
トキに**登米市をPR**しても通じるかどうか…
マガンや白鳥は、勝手に飛来してくれます。

よって、**これまでもこれからも**、環境にも人にもやさしい農林業の取組みを推進し、トキが飛来することを願います。

3. 取組を通じて目指す地域の姿

（人にも動物にも）
選ばれるまちになる



メダカが泳ぐ優しい田んぼ 赤とんぼが乱舞 渡り鳥が毎年必ず来る町
登米市は冬になると、そこかしこでマガンや白鳥に出会えます。

佐渡でトキに出会えるように、登米でもトキに出会えるように…

4. 取組内容

「人と野生動植物の共生を考えるつどい」を実施

令和5年3月12日
96名参加



演題『命羽ばたく登米の空～ガンとトキに選ばれる里地づくり～』

日本雁を保護する会 会長 呉地 正行 氏
(令和4年6月にラムサール賞受賞)

マガン類の生息地分散の一環として、冬季休耕水田に湛水しガンなどのねぐらとして活用する「ふゆみずたんぼ」の取組では、冬季に湛水を行わなかった乾田と比較した際、夏季にドジョウ等が増加し、さらに餌場として利用するサギ類も増加するなど良い影響が確認されている。

これは、トキが将来登米市に飛来した場合、利用できる良好な環境となると考えられる。



演題『命羽ばたく登米の空～ガンとトキに選ばれる里地づくり～』資料より